

**(仮称)道の駅おけがわ地域組織等育成支援業務委託
報告書**

桶川市

平成 28 年 3 月

目次

1	はじめに	1
	（1）これまでの経過	1
	（2）本業務の目的	1
	（3）設置検討委員会作業部会の構成について	2
2	農業振興部会の活動概要と検討結果	3
	（1）平成 27 年度の活動方針	3
	（2）活動経緯と概要	3
	（3）個別活動の内容と検討結果	3
	（4）平成 27 年度の部会活動の総括	11
3	商工業振興部会の活動概要と検討結果	13
	（1）平成 27 年度の活動方針	13
	（2）活動経緯と概要	13
	（3）個別活動の内容と検討結果	13
	（4）平成 27 年度の部会活動の総括	20
4	地域連携部会の活動概要と検討結果	21
	（1）平成 27 年度の活動方針	21
	（2）活動経緯と概要	21
	（3）個別活動の内容と検討結果	21
	（4）平成 27 年度の部会活動の総括	24
5	3 部会合同ワーキング	25
	（1）開催の目的	25
	（2）開催要領	25
	（3）講演要旨及び質疑応答	25
6	今後の方針と展開	29

1 はじめに

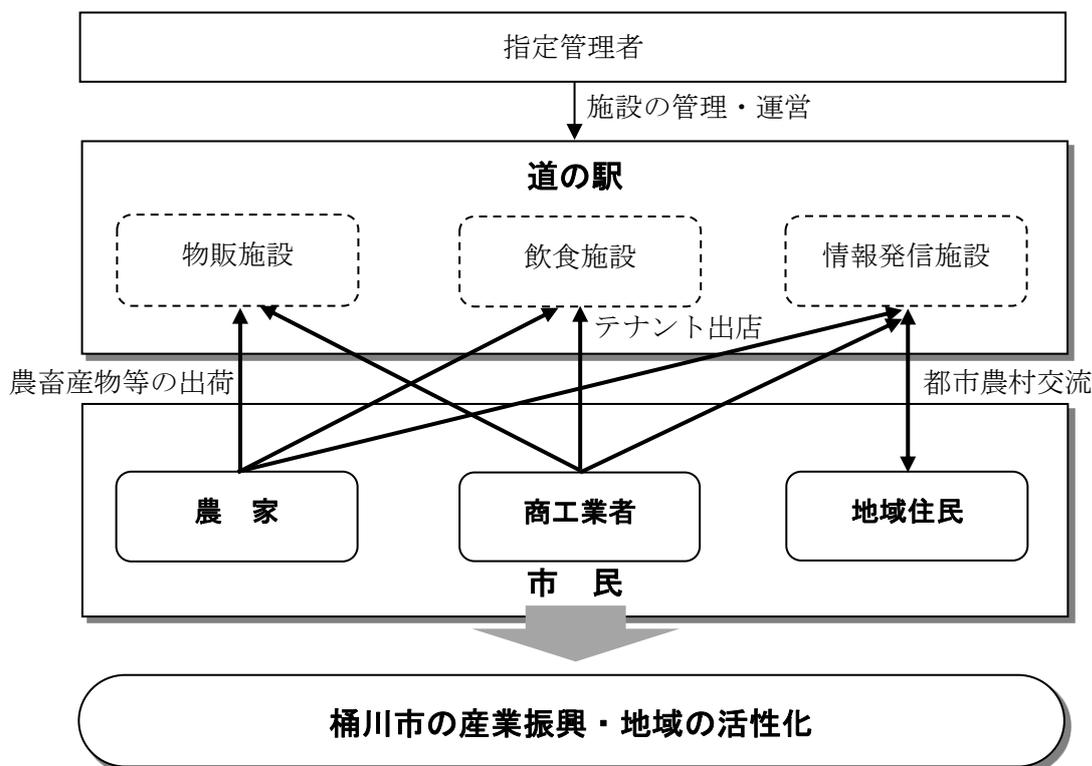
(1) これまでの経過

桶川市では、平成 26 年 3 月に（仮称）道の駅おけがわ管理運営等計画をとりまとめた。この中で、地域との連携方針について、「地域が連携し、市民が主役となって、道の駅の運営に参加することにより、相乗効果が生まれ、桶川市の産業振興と地域活性化を実現することを基本方針とする。」とした。この基本方針を踏まえ、平成 26 年度は、道の駅整備にあたり関係する団体より推薦を受け、農業振興、商工業振興、地域連携の 3 つのワーキングチーム（部会）を設立し、各ワーキングチームの参加者の意識の共有を図るとともに、今後の活動の方向性について検討を行った。

(2) 本業務の目的

本業務は、平成 26 年度に設立した各ワーキングチームの活動の方向性について、さらなる検討を行うとともに、地域振興の担い手であるワーキングチームの活動を継続し、発展させていくために必要な支援をしていくことを目的とする。

【道の駅への市民参加のイメージ】



(3) 設置検討委員会作業部会の構成について

各部会は、設置検討委員会の作業部会として位置付けられており、部会ごとの検討内容は設置検討委員会に報告され、設置検討委員会での検討の参考とされる。

なお、各作業部会の構成団体は、下表の通りである。

(順不同)

	団体名
農業 振興 部会	あだち野農業協同組合
	JAあだち野桶川地区農産物直売部会
	JAあだち野女性部桶川支部
	桶川市人と環境にやさしい農業推進協議会
	桶川市認定農業者協議会
	桶川市畜産振興協議会
	桶川市梨出荷組合
	桶川市農業委員会
	桶川市べに花生産組合
	桶川市農政課
地域 連 携 部会	桶川市区長会
	川田谷地区区長会
	川田谷地区社会福祉協議会
	桶川市観光協会
	桶川市くらしの会
	桶川市ガイドボランティアの会
	桶川市べに花の郷づくり推進協議会
	桶川楽郷の会
	桶川市健康づくり市民会議
	旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会
	桶川市子ども会育成連絡協議会
桶川市産業観光課	
商 工 業 振 興 部会	桶川市商工会
	桶川市商工会商業部会
	桶川市商工会工業部会
	桶川市商工会女性部
	桶川市商工会青年部
	桶川青年会議所
	桶川市料飲組合
	桶川べにばなスタンプ協同組合
	桶川イブニングロータリークラブ
	桶川ロータリークラブ
	桶川ライオンズクラブ
	埼玉県鴻巣保健所管内食品衛生協会桶川支部
桶川市産業観光課	

2 農業振興部会の活動概要と検討結果

(1) 平成 27 年度の活動方針

本年度は、昨年度の成果を踏まえ、市内で不足する農産物の確保、新たな出荷者の育成等を目的に、直売向けの新たな商品開発をテーマとし、計 5 回の部会を開催した。

酪農の 6 次産業化については、分科会を別途開催し、事業化に向けた検討を進めた。

(2) 活動経緯と概要

部会	開催日	活動概要
第 1 回	平成 27 年 7 月 16 日 (木)	*平成 27 年度の活動方針の確認 ①種苗会社による研修会の受講 ②実証栽培の実施方針の検討
第 1 回 分科会	8 月 19 日 (水)	③酪農の 6 次産業化に関する意見交換
第 2 回	10 月 20 日 (火)	④実証栽培品目の販売促進手法等の検討 ⑤実証栽培ほ場の現地確認
第 3 回	11 月 26 日 (木)	<3 部会合同ワーキング> 道の駅ソレーネ周南駅長の基調講演 (5 章参照)
第 4 回	平成 28 年 2 月 18 日 (火)	⑥実証栽培結果の検討 ⑦新たな出荷者の育成手法の検討

(3) 個別活動の内容と検討結果

①種苗会社による研修会の受講

- タイトル：「直売向けの秋作の新品種にチャレンジしよう！」
- 講師：野原種苗株式会社 取締役営業本部長 塩崎恵治 氏
- 内容：直売向けの秋作の新品種を紹介して頂くと共に、直売を核とした生産者の所得向上や担い手の育成などの考え方についての講義
- 講義のポイント：

◆消費量が多く安定的に売れる上位品目は固定している一方で、消費トレンドは年々変化している。近年これに対応した新品種の開発が進んでおり、直売所向けの有望品種を紹介する。

*紹介して頂いた品種は以下のとおり。

- ①スイートキャベツ 007…小玉でもやわらかく甘みもあり、直売所の販売品種として最適
- ②紫姫 (かぶ) …紫と白の色合いが売場で目を引き、サラダ向けに好評

- ③ホワイトベアー（たまねぎ）…5月獲りの真っ白なサラダ用品種
- ④彩紅5寸（にんじん）…最も糖度が上がる1月・2月獲り品種
- ⑤紫奏子（はくさい）…一般の半分の1.5kgの重量で紫色のサラダ専用品種
- ⑥BL-818（ブロッコリー）…3・4月獲りの晩生種で、まだ市販されていない品種
- ⑦ミラージュ（ほうれんそう）…夏まき用品種で、遮光材を使えば8月収穫も可能
- ⑧プロヨ姫・甘姫（トマト）…薄皮・完熟系で甘みが非常に強い直売専用品種

◆同じ品目でも、品種・作型を選び、技術力を高めることで、キャベツもたまねぎもにんじんも、周年出荷が可能であり、直売所で安定した売上を上げるためには、こうした栽培に取り組む必要がある。

◆統一規格がない、輸送する際傷みやすいなど、市場流通には適さない品種であっても、食味等が優れた直売所へのお荷に適した品種は多く出まわっている。特に需要が多いトマトはこうした直売所専用品に取り組むことで、品種・量を確保でき、直売所の集客力を高めることができる。

◆出荷組合の誰が、いつ、どの品目・品種をお荷するのかを集計し、一年間の出荷カレンダーをつくり、品目ごとにお荷がない時期を埋める作業をすることが、同一の農産物が大量に棚に並ぶ状況や組合員のお荷が減少し極端に仕入品に依存しなければいけない状況を避けるために、非常に重要である。これまでいくつかの直売所を指導してきたが、現在指導している中には、毎月出荷組合で勉強会を実施して、不足する農産物の把握とその対策を検討している直売所もある。

◆生産効率を考えると、お荷者一人あたりの生産品目は絞り込んだ方がよく、極端な言い方をすれば、ねぎだけ周年出荷するというお荷者がいてもよい。その場合は、お荷者がそれぞれ異なる品目をつくり、出荷組合全体で売上の上位を占める品目をカバーする体制をつくる必要がある。

◆直売所の事業を通して、次世代の担い手も育成できるし、遊休農地の解消にもつながり、地域の農業振興を実現することができる。

②実証栽培の実施方針の検討

地域における直売向けの野菜品種の普及に向けて、課題や今後の方針を明らかにするために、部会員により複数品種を栽培・販売する実証栽培に取り組んだ。

以下は、その実施フローである。

【ステップ1 企画段階】

野原種苗の塩崎氏から直売向け秋作の新品種についての講義を受け、推進品種の中から、試験品目・数量、栽培する部会員、今後の段取り等を決定する。

試験品目	数量 (種)	栽培する部会員等	
		桶川市べに花生産組合 柴崎委員	桶川市人と環境にやさしい農 業推進協議会（生産者は会員）
「紫姫」（かぶ）	2袋	○	○
「彩紅5寸」（にんじん）	2袋	○	○
「スイートキャベツ007」	2袋	○	—
「紫奏子」（はくさい）	2袋	○	—
「BL-818」（ブロッコリー）	2袋	○	—
「ミラージュ」（ほうれんそう）	2袋	× (耐暑性が強いという売りだ が夏場の高温で発芽せず)	○

(○：栽培成功 ×：栽培失敗 —：栽培せず)

【ステップ2 生産段階】

種苗会社から決定した品種の種を調達し、部会員等は播種・栽培を開始する。
部会員が試験栽培ほ場に赴き、栽培上の課題・ポイント等について意見交換する。

【ステップ3 販売段階】

試験栽培する部会員が、それぞれの販路で販売して消費者の反応を確認する。
その際、品目ごとに品目特性等を表記したPOPを作成し売場で掲載する。

【ステップ4 検証段階】

試験品種を市内で普及する上での課題や、普及方法や、試験品種等による、新たな出荷の確保に向けた方法についてとりまとめる。

③酪農の6次産業化に関する意見交換

農業振興部会の分科会として、桶川市酪農協会の会員と、酪農の6次産業化に関する意見交換会を行った。以下はその骨子である。

●意見交換会の骨子：

- ◆6次産業化ネットワーク活動交付金等の補助制度について、農政課より説明を行った。
- ◆道の駅で酪農協会がテナント出店し、アイスやジェラートなどの製造・販売事業に取り組みたいが、機械の購入経費の負担、人材の確保など、様々な課題がある。
- ◆アイス・ジェラートは季節性も高く、冬場の売上は夏場の5分の1くらいまで落ち込むことから、クレープなど冬用の商品開発も必要であり、ビジネスであるからには、成功するとは限らず人件費を賄う売上を確保することも容易ではない。
- ◆若手の意見を重視すべきで、やる気がある若手がいるのなら、畜産振興協議会としても早期から道の駅への出店意向を市に示し、若手に協力していくべきである。
- ◆以上の点等を踏まえ、畜産振興協議会内部でじっくり話し合い、出店の可否や運営方法等について結論を出していくものとする。

※その他、桶川市畜産振興協議会では、平成27年度、6次産業化に向けた研究のため、加藤牧場（日高市）及び株式会社エフ・エム・アイ（東京都港区）の視察を実施した。

④実証栽培品目の販売促進手法等の検討

実証栽培品目の販売促進手法等を検討した結果、以下のPOPを作成し、販売促進活動に活用することになった。

桶川市の直売所から発信！お客様視点のこだわり野菜シリーズ
スーパーには、めったに出回らない品種です。

**ゼロゼロセブン
スイートキャベツ007**

食味抜群！
生がおいしい。
やわらかくて、シャキシャキ、
あま〜いキャベツです。




桶川市マスコットキャラクター「オウちゃん」

(仮称) 道の駅おけがわ設置検討ワーキング（農業振興部会）活動事業 協賛：野原種苗株式会社

桶川市の直売所から発信！お客様視点のこだわり野菜シリーズ
スーパーには、めったに出回らない品種です。

**むらさきひめ
紫姫**

首元が赤紫のかわいいお姫様。
葉もやわらかくまるごと美味！
浅漬け、サラダの
色合いに最適です。




桶川市マスコットキャラクター「オウちゃん」

(仮称) 道の駅おけがわ設置検討ワーキング（農業振興部会）活動事業 協賛：野原種苗株式会社

桶川市の直売所から発信！お客様視点のこだわり野菜シリーズ
スーパーには、めったに出回らない品種です。

**あやべに
彩紅5寸**

ベータカロチンがとっても豊富。
食味にすぐれたにんじんです。
冬はあまみが
最も乗る季節です。




桶川市マスコットキャラクター「オウちゃん」

(仮称) 道の駅おけがわ設置検討ワーキング（農業振興部会）活動事業 協賛：野原種苗株式会社

桶川市の直売所から発信！お客様視点のこだわり野菜シリーズ
スーパーには、めったに出回らない品種です。

BL-818

名前はまだない
開発したばかりの
春どり専用のブロッコリーです。
花つぼみがきっちり締まって、
おいしさが凝縮！



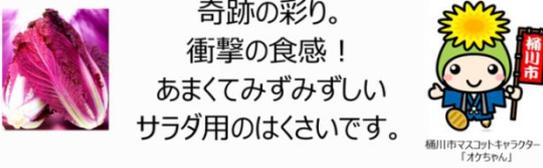

桶川市マスコットキャラクター「オウちゃん」

(仮称) 道の駅おけがわ設置検討ワーキング（農業振興部会）活動事業 協賛：野原種苗株式会社

桶川市の直売所から発信！お客様視点のこだわり野菜シリーズ
スーパーには、めったに出回らない品種です。

むらさきどうし
紫奏子

奇跡の彩り。
衝撃の食感！
あまてみずみずしい
サラダ用のはくさいです。



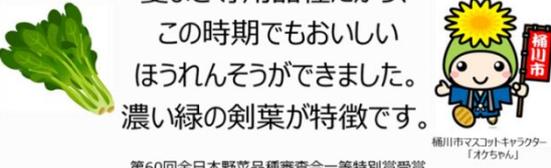
桶川市マスコットキャラクター「オクちゃん」

（仮称）道の駅おかげがわ設置検討ワーキング（農業振興部会）活動事業 協賛：野原種苗株式会社

桶川市の直売所から発信！お客様視点のこだわり野菜シリーズ
スーパーには、めったに出回らない品種です。

ミラージュ

夏まき専用品種だから、
この時期でもおいしい
ほうれんそうができました。
濃い緑の剣葉が特徴です。



桶川市マスコットキャラクター「オクちゃん」

第60回全日本野菜品種審査会一等特別賞受賞

（仮称）道の駅おかげがわ設置検討ワーキング（農業振興部会）活動事業 協賛：野原種苗株式会社

⑤実証栽培ほ場の現地確認

部会員が、柴崎委員のほ場を視察し、現地での栽培状況の確認と意見交換を行った。
また、桶川市人と環境にやさしい農業推進協議会会員のほ場については事務局が確認作業を行った。

【柴崎委員のほ場の様子】



「紫姫」(かぶ)



「紫奏子」(はくさい)



「彩紅5寸」(にんじん)



「スイートキャベツ 007」

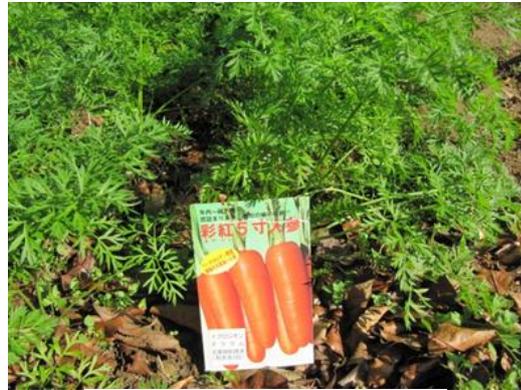


「BL - 818」(ブロッコリー)

【桶川市人と環境にやさしい農業推進協議会会員のほ場の様子】



「紫姫」(かぶ)



「彩紅5寸」(にんじん)



「ミラージュ」(ほうれんそう)

⑥実証栽培結果の検討

実証栽培並びに試験品目の販売結果と、試験栽培に対する検討結果を以下のとおり整理する。

【柴崎委員の庭先直売所での販売の様子】



【実証栽培の結果】

品目 品種	生産者	播種時期	販売時期	販売場所	販売価格	販売数量	販売金額	生産者感想等
「紫姫」 (かぶ)	柴崎 委員	平成 27 年 9 月 7 日	平成 27 年 11 月 25 日 ～12 月 13 日	庭先直売所	150 円/点 (1 点 6 個)	33 点 (200 個)	4,950 円	よく発芽し、よい品種だと思うが、堆肥したためか肌が汚くなったので、栽培知識が必要だと感じた。
	協力 会員	平成 27 年 9 月 28 日	平成 28 年 1 月 5 日 ～29 日	ふるさと館	100 円/点	60 点	6,000 円	魅力が今一つで色以外に特徴がない。漬物など手間をかけて料理する人が減っている、カット野菜やサラダには向いていると思う。
「彩紅 5 寸」 (にんじん)	柴崎 委員	平成 27 年 8 月 13 日	平成 27 年 11 月 21 日 ～12 月 25 日	庭先直売所	100 円/点 (1 点 4 本)	50 点 (200 本)	5,000 円	よく発芽したが、次回からは間引きを徹底して大きく育てたい。JA の農業祭に出品した。
	協力 会員	平成 27 年 8 月 23 日	平成 28 年 1 月 10 日 ～30 日	ふるさと館	100 円/点	200 点	20,000 円	品質は他の品種と大差はない。家族の人数が減っている、にんじんを含め野菜は大きさが控えめなものも売れる。
「スイートキ ャベツ 007」	柴崎 委員	平成 27 年 7 月 27 日	平成 27 年 11 月 21 日 ～12 月 24 日	庭先直売所	150 円/点	25 点	3,750 円	まずまずの出来であったが、小ぶりだったので、今回は追肥の仕方などに気をつけ、もっと大きく育てたい。
「紫奏子」 (はくさい)	柴崎 委員	平成 27 年 8 月 27 日	平成 27 年 11 月 25 日 ～12 月 10 日	庭先直売所	200 円/点	20 点	4,000 円	アブラムシが大量に発生したので、防虫対策が必要だと感じた。
「BL - 818」 (ブロッコリー)	柴崎 委員	平成 27 年 7 月 27 日	平成 27 年 11 月 21 日 ～12 月 24 日	庭先直売所	150 円/点	40 点	6,000 円	ブロッコリーはよく売れるので、来年は多く作りたい。また、時期をずらした播種をした。
「ミラージュ」 (ほうれんそう)	協力 会員	平成 27 年 9 月 28 日	平成 27 年 10 月 15 日 ～11 月 1 日	ふるさと館	100～150 円 /点	200 点	25,000 円	優秀な品種だと感じた。来年も栽培したい。収穫時期をずらすことも可能で、育ちも良かった。

*協力会員のにんじん、ほうれんそうは、既に対象品種を栽培しており、販売額は試験用に提供した 2 袋の種と既存のものと混在している。

【試験栽培に対する検討結果】

◆試験栽培の結果は概ね良好であり、今後直売所で販売する品目としては一部の品目を除き有望であるとの結論を得た。しかし、品目によっては栽培の高度な知識が必要であり、今後の普及にあたっては、JA と種苗会社が連携した栽培指導体制の充実が必要であると考えられる。

◆また、販売に活用した POP は効果的であったが、消費者によっては品種の味覚特性等よりも、見た目の大きさや調理しやすさ等を重視することから、例えば試食販売等による販促等、販促方法を見直す必要があるものと考えられる。

⑦新たな出荷者の育成手法の検討

新たな出荷者の育成手法の検討結果は以下のとおりである。

【新たな出荷者の育成手法の検討結果】

- ◆市内の農家に対するアンケートでは、桶川市には1反以上の農地を持つ農家が1,000人弱存在するが、その約6割は販売しておらず、約7割は遊休農地を持つという結果が出ている。また、出荷意向を持つ農家は約2割であった。桶川市の農産物の生産額は約3億円で、このすべてを道の駅に出荷しても3億円の売上にしかないという状況である。
- ◆こうした状況で、道の駅への市内出荷者を拡大するためには、小規模な自給的農家を地道に発掘・育成することが基本的な方針となる。
- ◆一方、JAでは、市民向けのアグリセミナーと、就農希望者向けの担い手塾という二つの研修システムを持っている。前者は現在8名～10名程度の受講生がおり、月1回程度の研修を実施している。後者は県の補助を受けた事業で3名程度の受講者がいるが、直売農家の育成とは異なる目的を持つ。
- ◆そこで、市が60歳以上の定年退職者を対象に募集をかけて講習会を開催し、その中からやる気がある市民をJAが引き受けるなど、市とJAとの役割分担による育成制度が必要であると考えられる。

(4) 平成27年度の部会活動の総括

①直売用品種の栽培指導体制の必要性

平成27年度は、既存農家がより多くの品目を生産し、道の駅での品揃えの充実と周年出荷体制を構築するための実証的な取組として、部会員を中心に直売専用品種の試験栽培を行った。その結果、いくつかの品種を除き、直売所用品種として有望であるとの結論を得た。しかし、品目によっては栽培の高度な知識が必要であり、今後の普及にあたっては、JAと種苗会社が連携した栽培指導体制の充実が必要であると考えられる。JAでは既に、直売所の出荷部会ごとに、同様の栽培講習会等を開催していることから、既存のJA直売所への出荷者を拡大し、JAが主催する栽培講習会等への受講生を増やすことも有効であると考えられる。

②消費者への効果的な情報発信の必要性

新品种の販売にあたっては、品目の特徴や食べ方等を表記したPOPによる店頭販促や、試食販売などによって消費者にダイレクトに情報発信することが重要であると考えられる。さらに、本年度POPに記載した桶川市のマスコットキャラクターの「オケちゃん」を有効活用し、地場産であることを告知することが効果的であると考えられる。

③新たな出荷者の発掘・育成の必要性

道の駅において豊富な農産物の品揃えを実現するためには、新たな出荷者の発掘・育成が重要である。発掘・育成手法については、定年退職する自給的農家をメインターゲットに、市が募集をかけて講習会への参加を促すことできっかけをつくり、その中から農産物の出荷等に意向を持つ者をJAが主体となって育成する手法が効果的であると考えられる。一方、JAの直売所への出荷者資格は、准組合員以上が条件であることから、自給的農家等をJAの准組合員にし、JAの指導のもと既存のJA直売所に出荷してもらうような道筋をつけることが、道の駅出荷者の拡大のための効果的な手法であると考えられる。

3 商工業振興部会の活動概要と検討結果

(1) 平成 27 年度の活動方針

本年度は、昨年度の成果を踏まえ、地域資源を活かした商品力のある商品・サービスの掘り起こし、効果的な情報発信方法について、継続的な取り組みとするための方向性を定めるために、計 4 回の部会を開催した。

(2) 活動経緯と概要

部会	開催日	活動概要
第 1 回	平成 27 年 10 月 19 日(月)	*平成 27 年度の活動方針の確認 ①商品・サービスのデータベース化、情報発信の実施方法の検討
第 2 回	11 月 16 日(月)	②「まちのうわさ」のつくり方～地域のコミュニケーション力を通じた道の駅の魅力向上の仕掛けづくり～ ③「おけがわのうわさ」ワークショップ-1
第 3 回	11 月 26 日(木)	<3 部会合同ワーキング> 道の駅ソレーネ周南駅長の基調講演 (5 章参照)
第 4 回	平成 28 年 2 月 22 日(火)	④「おけがわのうわさ」ワークショップ-2

(3) 個別活動の内容と検討結果

①商品・サービスのデータベース化、情報発信の実施方法の検討

- 道の駅で提供される商品・サービスの掘り起こし方、また道の駅での情報発信の実施方法に関して意見交換を行った。
- 出てきた意見は「部会のあり方」「集客のアイデア」「集客のための機能」「商品」等のカテゴリーに分けられる。

【主な意見】

(部会のあり方)

- ・現在の部会員は市内の主な経済団体等を中心に集められたものであり、団体を代表して参加しているため、個人的な意見をこの場で発言することが難しい。より多くの事業者へ情報提供し、部会への参加を促進させることが必要ではないか。
- ・「集まる」「売れる」「遊ぶ」といったカテゴリーを設定し、より細かな部会を立ち上げ、各カテゴリーに興味のある人材を集めるという形でも良いのではないか。

(集客のアイデア)

- ・ 広域客の取り込みという意味では、圏央道のS A等競合施設との差別化を考えていく必要がある。
- ・ リピート客を如何につくっていくかという視点に立ったコンテンツ、ファンづくりが重要である。
- ・ 田舎うどんをフューチャーするにしても、全国のうどんを集める等の仕掛けがないと飽きられる。食べ比べによる集客、滞在時間を延ばす仕掛けが必要である。
- ・ B級グルメ、べに花アイス等の新しい取組によって、集客が生まれるのではないか。
- ・ 休耕地を市民農園として利用することで、桶川市にリピートする動機づけをつくり、道の駅利用を促進させる。栽培した農産物のバーベキューのできる場所を提供し、併せて道の駅による食材を買ってもらうような仕組みも考えられる。
- ・ 団体の大会（ビジネス）や城山公園を利用した合宿等の需要を取り込み、その際に道の駅を利用して貰う等の仕掛けが必要ではないか。
- ・ 道の駅に関する市民の関心は低く、商業者、事業者は様子見の状況が見られる。そこで、一般の人も参加できる、興味を持ってもらえる「コンテスト」を開催してはどうか（べに花祭り、市民まつり）。一般市民の声を盛り込む仕組み。

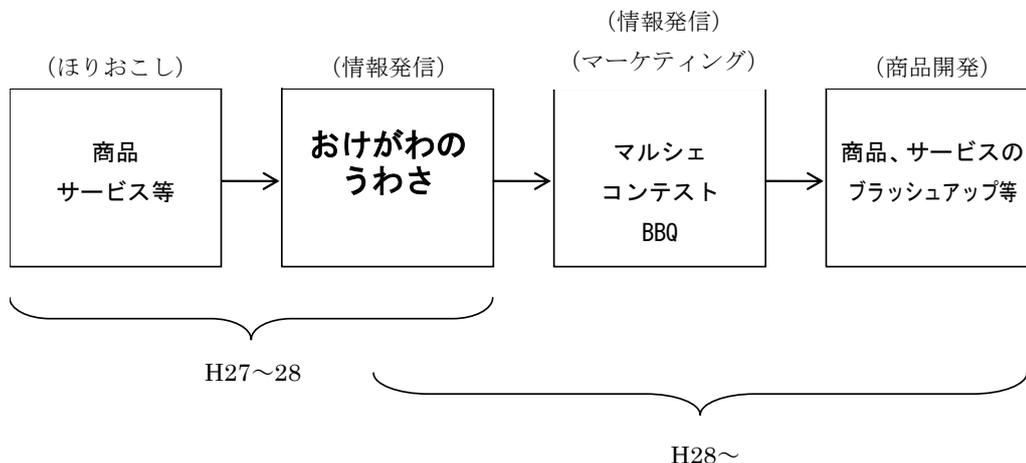
(集客のための機能)

- ・ 如何に滞在させるかが重要である。例えば、オール桶川食材でのバーベキュースペースとか。
- ・ 遊べるところ、滞在時間を延ばす仕掛けが必要である。例えば公園、水遊び場等。
- ・ サイクリングロード利用者を取り込むため、温泉やシャワー等を整備し、道の駅が起点となるようにしてはどうか。
- ・ 話題性のあるトイレがあると良い。例えば、天空のトイレ等、他にはない空間の提供という考え方も必要ではないか。

(商品)

- ・ ターゲットの設定をして、商品開発をしていくべきではないか。
- ・ 新商品の開発、マーケティングのためにチャレンジショップ的な機能が必要ではないか。

- 出てきた意見を見ると、現段階で商品、サービスの掘り起しや情報発信について検討することが、道の駅開業に向けた商工業者の取組とどのように結びつくか共有できていないように感じられた。そのような中で、一連の取組の流れについて以下のように整理し、部会員の理解を促した。



- 紹介した「八戸のうわさ」は、地域資源の掘り起しの手法、話題の発信の仕方として有効であるという認識を部会員から得て、次回の部会で実践者である山本氏の招聘、うわさの模擬ワークショップの実施について確認した。

②山本耕一郎氏による講演会の受講

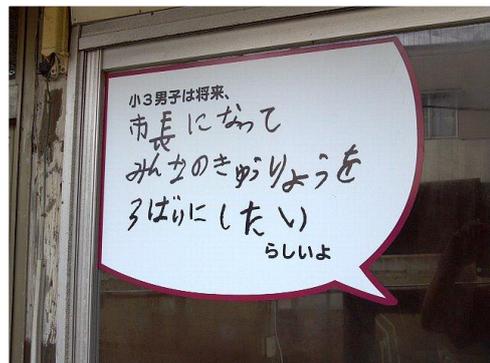
- 前回の部会で確認した、「八戸のうわさ」の実践者である山本氏を招聘し、これまでの取組について講演会を実施し、事例研究を行った。
- タイトル：「まちのうわさ」のつくり方～地域のコミュニケーション力を通じた道の駅の魅力向上の仕掛けづくり～
- 講師：山本耕一郎氏（現代美術家）
- 内容：「八戸のうわさ」をはじめ、各地で実施されたうわさプロジェクトについて、スライドを見ながら、取組の内容、取組の効果等についてショート講演を開催した。

【講演内容】

- ◆「コミュニティアート」はアーティストと市民が協働し、アートを通してコミュニティの抱える課題の解決や新たな価値の創造をめざす取組である。
- ◆うわさプロジェクトは元々登戸（川崎市）で初めて開催され、その後八戸市の市街地に整備された八戸ポータルミュージアム「ハッチ」の開館に合わせて「八戸のうわさ」が開催された。その後、熊本市、江津市（島根県）等でその土地土地で形を少しずつ変えながら開催されている。

- ◆自分では恥ずかしくて言えないけれど、ちょっとした自慢やみんなに知って欲しいことはだれでも持っている筈。それを何度も店に通い取材し、うわさ言葉に直して発信することで、店と市民の間にコミュニケーションのきっかけがつけられる。そのきっかけからコミュニケーションが深まっていくことで活性化の機運が高まる。
- ◆活動は市民の参画なくしてできない。店への取材、さまざまな活動の手伝い等、市民が主体的に楽しんでボランティアで参加している。そのつながりの中で口コミで活動が話題になっていく。
- ◆うわさプロジェクトは既定の形はなく、地域ごとにバージョンを変えていけばよい。
- ◆昼間に桶川市内を廻ったが、面白い店や場所がやはりある。市民が気づいていないその土地ごとの価値を見つけていくことで特徴が出てくるのではないか。

【講演で使われたスライド（抜粋）】



③「おけがわのうわさ」ワークショップ-1

●山本氏の講演に引き続き、部会員による「おけがわのうわさ」を体感するワークショップを行った。

【主な意見】

- ◆今回市内を廻ってみて、初めて知ったことや行ったことのない店や場所があり、このような情報を集めていくことによって、地域資源の情報が集約されていく。
- ◆昔話、自分しか知らない情報、それが「うわさ」である。地図に色々な「うわさ」が貼り込まれることで、「うわさ」の地図が出来上がっていく。
- ◆「八戸のうわさ」は、あくまで地域資源を掘り起し、活用するための先進事例として捉えている。皆が持っている地域資源の情報を「うわさ」という形で出していければ面白いのではないかという発想である。
- ◆「うわさ」の店や商品を集めたマルシェ等の開催を通して道の駅開業に向けた準備をしていくことも想定される。
- ◆道の駅に求められる機能として、地域資源の情報発信機能がある。このような取組を進め、地域資源の情報を集め道の駅にこのような「うわさ」マップを掲示し地域資源の情報発信を行い、そこで得た情報を元に来訪者が市内のお店に行ってもらうきっかけとする仕掛けをつくっていくことが重要である。

【ワーキングの様子】



【講演案内チラシ】

(仮称)「道の駅おけがわ」第2回商工振興部会
 (テーマ) 事例研究
「まちのうわさ」のつくり方
～地域のコミュニケーションを通じた
道の駅の魅力向上の仕掛けづくり～

- (仮称)「道の駅おけがわ」設置検討ワーキングは、昨年度に引き続き3つの部会(農業振興部会、商工振興部会、地域連携部会)に分かれ、道の駅開業を見据えた、地域の取組について検討を進めています。
- 道の駅の成功のためには、関係者や市民の方に主体性を持って頂き(地域力を結集し)、道の駅を活用した地域活性の取組を進めていけるかが大きなカギを握っていると思います。
- 商工振興部会では、昨年度「地域資源を活かした商品・サービスのほりおこし」「地域の事業者と道の駅のWINWINの関係づくり」「市民の道の駅への関与の機会、関心の向上」等の取組の必要性があるという結論に達しました。また、今年度、10月19日(月)に開催した第1回商工振興部会において、これらの課題に取り組み、将来の「特産品や・独自商品開発」につなげるため、「商品データベースの作成や情報発信を通じ、道の駅に積極的に関わっていくための機運の醸成を図る」ことを今年度のテーマとすることを確認しました。
- そこで、地域の情報収集と情報発信についてユニークな事業を展開している「八戸のうわさ」の仕掛人である山本耕一郎氏を講師にお呼びし、講演をお願いすることになりました。

日時：平成27年11月16日(月) 18:00～20:00
 会場：桶川市商工会館2階会議室(住所：鴨川1-4-3)



【講演者 経歴】

山本耕一郎 氏

1969年1月28日、名古屋市生まれ。筑波大学卒、英国ロイヤルカレッジアート大学院修了。「アビアートフェスティバル」「100字モノアートの出展」などに参加。まちのうわさの仕掛けがされたアビダラを商店街に届出する「うわさプロジェクト」や、小学生と一緒にまちのうわさの記念日が書かれたカレンダーを作る「まちかじ」など、地域に根ざしたプロジェクトを展開している。2012年から八戸市南部区無言に参入、全国でプロジェクトを進行中。

最近のプロジェクト

- 『まちのうわさ』熊本県熊本市
- 『おけがわのうわさ』青森県八戸市
- 『江津のうわさ』島根県江津市
- 『うわさのインマキ』宮城県石巻市
- 『おけがわのうわさ』栃木県宇都宮市
- 『まちかじ』青森県八戸市



👁️ ここに注目!

- 「うわさ」をきっかけに、地域の自慢や誇り、愛着を持つ市民が拡大。
- 「うわさ」をきっかけに、新たなお客様の来訪が拡大。
- 「うわさ」は、商店街だけでなく、色々な多様な活用の可能性がある。

👥 参加者でこれを考えよう!

- おけがわで、「うわさ」をどのような形で使っていけばいいか?
- おけがわのまち全体に「うわさ」が広がっている風景ってどんな感じ?
- 「うわさ」をきっかけに、「道の駅」をどうやってつなげていこうか?

④「おけがわのうわさ」ワークショップ-2

- 前回に引き続き、部会員による「おけがわのうわさ」を体感するワークショップを行った。
- 開催に先立ち、「うわさ」を記入するワークシートを部会員に配布し、当日までに記入して持参する宿題を依頼した。

【主な意見】

- ◆本部会は、「独自商品の開発」と「地域商品の再発見」といった二つの視点で検討を開始した。「独自商品の開発」はハードルも高く、検討には熟度が必要となる。そのため、今年度は「地域商品の再発見」として地域情報を集めることと情報発信の手段を検討することとした。
- ◆うわさもいろいろなものがあって、人が変わればもっと出てくると思う。地域情報、店舗情報を出し合い、魅力を見つけるため、もう少し継続してみてもどうか。
- ◆道の駅を拠点とし、道の駅から町に人を流すために、レンタサイクルやマップ作りをしてみてもどうか。
- ◆道の駅で利益を出していくことを目標に置くのであれば、食品関係の人を中心にメンバーを入れ替えてはどうか。
- ◆ただ物を買うだけではなく、滞在・体験できる施設を目指してはどうか。
- ◆来年度は他の部会と合同で検討を進め、道の駅ができる前からでも例えばマルシェのようなものをしていきたいと考えている。

- ◆この事業をやると早く決めて欲しい、その上でがんばるといふ共通認識を持って取り組まないといつまでたっても進まない。
- ◆やる気のある人をどう集めるかが課題、皆さんにも協力してもらいたい。

【ワーキングの様子】



【ワークシート】

（仮称）道の駅おけがわ商工業振興部会ワークシート

- ◆商工業振興部会では、市内の商工業に関する資源のデータベース作りを目指し、「八戸のうわさ」プロジェクト等を参考に情報の集め方、発信の仕方などを学んできました。
- ◆今回のワーキングでは、会員の皆様がお持ちの情報を出し合い、福川市内の商工業に関する生きた情報を集めたいと考えています。
- ◆道の駅開業を見据えて、ここで集められた商品、事業者の方に声をかけ、将来的には『く飯うわさのマルシェ』を開催することを目論んでいます。また、地域の情報をもっと集めることによって、道の駅開業後は、道の駅から地域の情報を発信し、直接市内のお店にお客様にあしを運んでもらうきっかけづくりとなるようにしていくことを目論んでいます。

例えば、こんな情報はありますか？

- ・いつもランチはここで食べている。
- ・実は〇〇さん(著名人)御用達の■■なんです！
- ・友人が来るとこのお店に連れて行きます。
- ・このお店の店長がすごいんです！！

他にもおススメしたい情報をシートに記入してください。

No.	お店 & 人 & 商品	選んだ理由
例	チランガバンダ	福川では珍しいタコスが食べられるお店が昨年11月にオープンしたらしいよ！
1		
2		
3		
4		
5		

(4) 平成 27 年度の部会活動の総括

①桶川らしい商品、店の掘り起しの継続

道の駅は地域商品の販売を通じた地域活性化の拠点と位置付けられる。道の駅が全国に 1,000 箇所以上整備された中で、本市のような後発組は既存の競合との差別化をいかに図っていくかという視点を持つ必要がある。差別化のための最も重要な要素がやはり取り扱われる商品、提供されるサービスである。

本年度取り組んだ「おけがわのうわさ」は、桶川らしい商品や店の掘り起しのきっかけとなるものと思われる。

道の駅開業に向けて「おけがわのうわさ」を来年度以降も継続することによって、桶川らしい商品、店の情報が集まり、桶川独自のコンテンツを充実させることが望まれる。

②道の駅開業を見ずえたマルシェの実践

本部会は道の駅開業を契機とした商工業振興を目的としているが、この 2 年間の活動結果を見ると、部会員の意欲向上、自主的な活動への移行といった成果を出すには至っていない。それは、部会員にとって、道の駅開業による具体的なメリットがイメージできなかったことに大きな原因と考えられる。

そこで、来年度は具体的なイメージを膨らませる場として、うわさの商品、サービス、店等を集めた「おけがわ・うわさのマルシェ（仮）」を開催することを提案する。これは商品、サービスの販売実証の場であり、部会で出た集客のアイデア（例：桶川市産農産物等を使ったバーベキュースペース）の実証の場としても位置付けられる。また、これは農業振興部会、地域連携部会とも関連することから、3 部会共同で開催することが望まれる。

この活動の継続により、道の駅開業に向けた事業者の機運の高まり、参加事業者の拡大、商品のブラッシュアップ、市民の道の駅に対する関心の高まり等の効果が期待される。

③実働体制の構築

「おけがわのうわさ」の継続は桶川らしい商品、店の情報が集まり、桶川独自のコンテンツが充実されることが予測される。

一方、現在の部会員は経済団体の代表として参加しているため、個人的な意欲を持って参加することが難しい面があったり、部会員の人数が限定的であること等から、現在の部会の形での取組の継続が困難になることが予想される。そこで、次年度以降の本部会は現在の部会員に限定したものではなく、より多くの商工業者、市民が主体的に参画し活動できる体制を構築し進めることが望ましいと思われる。

4 地域連携部会の活動概要と検討結果

(1) 平成 27 年度の活動方針

本市の道の駅の 3 つあるコンセプトのうち、『“手ぶらで楽しむ” 地域の百貨店』、『“東京都から 1 時間” 都市と故郷の交差点』には、桶川の魅力を市内外に発信していく拠点として道の駅を位置付けるとされている。

本年度は、川田谷地区を中心に市内の魅力ある地域資源を再確認し、さらにその地域資源と道の駅利用者とを結びつけるためのより具体的な方策について検討するため計 4 回の部会を開催した。

(2) 活動経緯と概要

部会	実施時期	実施内容
第 1 回	平成 27 年 10 月 23 日 (金)	① 地域の観光資源の再確認をテーマとしたワークショップ
第 2 回	11 月 26 日 (木)	<3 部会合同ワーキング> 道の駅ソレーネ周南駅長の基調講演 (5 章参照)
第 3 回	平成 28 年 2 月 17 日 (水)	② 川田谷地区の地域資源の現地視察会の実施
第 4 回	3 月 9 日 (水)	③ 魅力発信拠点としての道の駅の活用方法の検討をテーマとしたワークショップ (モデルコースの作成)

(3) 個別活動の内容と検討結果

①地域の観光資源の再確認をテーマとしたワークショップ

道の駅のコンセプトを具体化し、道の駅を桶川の新たな魅力発信の拠点とするために魅力発信プログラムの作成とその活用策を探るため、「一人旅」、「親子連れ (小学生)」、「親子連れ (未就学児)」、「カップル (友達同士)」、「シニア層」の対象ごとに、「見る」、「食べる」、「買う」、「体験する」、「学ぶ」の視点で、桶川市内の地域資源の再確認を行った。

②川田谷地区の地域資源の現地視察会の実施

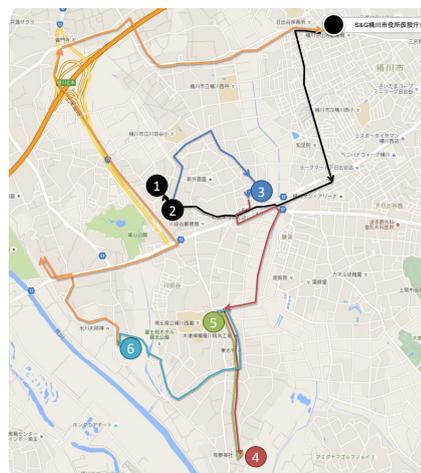
第 1 回部会の意見を参考として、川田谷地区の地域資源をまわるモデルコースを桶川市観光協会とガイドボランティアの会の協力の元で作成し、地域連携部会員で見学を行い、視察した施設等ごとに施設等の感想と、親子連れ、シニア層、若年層の各ターゲットに対して、それぞれの施設と併せて紹介したい桶川市内の魅力について整理した。

【モデルコース】

地図	日程	訪問先
①	13:00	川田谷歴史民俗資料館
②	13:40	石川川河津桜
③	14:10	小島農園
④	15:00	熊野神社
⑤	15:20	ハートフル桶西水族館
⑥	16:00	泉福寺
—	—	砂川牧場、旧陸軍熊谷飛行学校 桶川分教場（帰路に立寄り）

※バスで移動（①から②の間は徒歩で移動）

【ルート図】



③ 魅力発信拠点としての道の駅の活用方法の検討をテーマとしたワークショップ（モデルコースの作成）

第1回部会、第2回部会による検討及び現地視察会を踏まえ、2グループに分かれて、道の駅を中心として、地域資源をどのように回遊させることができるかを検討するとともに、「どのような問題点があるか」、「何が足りないか」など、課題を抽出することを目的としてモデルコースの作成を行い、発表を行った。また、モデルコースの作成と併せて、地域連携の拠点としての道の駅に求める機能についても検討した。

Aチーム【対象：親子連れ】

コース名 : 中世の街道をゆく

コンセプト : 古き良き武蔵野の田舎（田園風景）を感じながら、古代・中世より続く街道を歴史スポットを訪ねながらのんびり歩く。

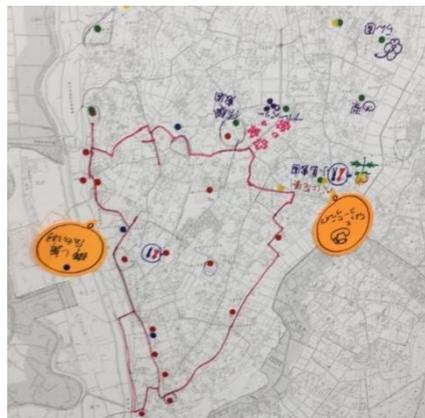
道の駅に求める機能等 : コース案内コーナー（お散歩コンシェルジュデスク）、お散歩コースをまわった方（スタンプラリー）へ道の駅で農産物をプレゼント、新たなコース設定に役立てるため歩いた人たちの感想を募集する機能、地元芸能の継承のための発表の場 等

【モデルコース】

日程	内容
9:00	道の駅
9:45	泉福寺
10:40	熊野神社
11:30	小島農園
12:20	道の駅

※徒歩で移動

【ルート図】



Bチーム【対象：シニア層】

コース名 : 史跡巡りサイクルロード

コンセプト : 荒川沿いのサイクルロードを活用して、周辺に豊富にある史跡巡りのサイクルロードを作る。

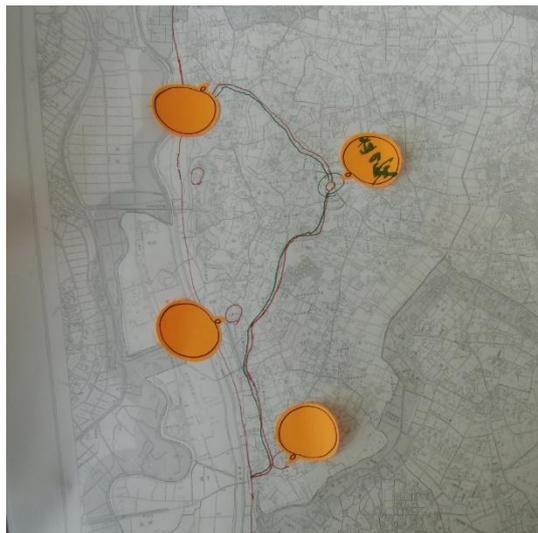
道の駅に求める機能等 : レンタサイクル、道の駅と連動し、周辺の自然環境の整備を図る、コース途中にトイレや休憩所の設置、道の駅への温浴施設の設置 等

【モデルコース】

日程	内容
10:00	道の駅
10:10	歴史民俗資料館
11:00	原山古墳群
12:00	旧陸軍熊谷飛行学校桶川分教場
13:00	泉福寺
14:00	熊野神社
15:00	道の駅

※自転車で移動

【ルート図】



【ワーキングの様子】



(4) 平成 27 年度の部会活動の総括

①魅力発信の拠点としての道の駅の活用方法について

第 4 回部会の際に、道の駅を起点としたモデルコースの紹介やモデルコースへの感想の収集を行うコンシェルジュの設置等、情報の受発信機能を道の駅に整備することや道の駅周辺にサイクリングコースを設け、道の駅にレンタサイクルを設置する等の意見が出された。

上記のような地域連携の拠点としての道の駅の活用方法について、道の駅の開業時期から逆算して、検討のスケジュールを明確に定め、取組に係る人材の確保の方法や活動資金の調達方法等、より具体的な検討を段階的に進めていくことが必要となる。

②地域連携部会のあり方

昨年度、地域連携部会立ち上げ時、市内の様々な団体等の意見を広く集めることによって、地域連携がより深化されるという考えに基づき、メンバーの人選を行ったところである。しかし、それぞれの団体の設立の経緯や活動目的、運営形態が異なる中で、地域連携部会の意義や達成目標を十分に部会全体で共有することができなかった。

次年度以降、地域連携部会を継続するには、道の駅開業後も人材や資金の提供等、何らかの形で実際に取組等の主体となれる組織（観光協会、ガイドボランティア等）を核に部会を組織し、必要に応じて市内の各団体の意見等を聴取する形が望ましいと考えられる。

③農業振興部会との連携の可能性

地域連携部会においても都市農村交流、収穫体験、軒先での直売等、農業との連携に関する意見が多く出されたように、市内で最も農地が豊富な川田谷地区を中心とした地域連携を検討する際に、農業との連携は切り離すことができないと考えられる。

次年度以降は、都市農村交流等、農業に関する取組については、関係する地域連携部会員も参加し、農業振興部会で検討することで、より実効性のある検討になるものと考えられる。

5 3部会合同ワーキング

(1) 開催の目的

地域活力を活かした道の駅の先進的な事例である「道の駅ソレーネ周南」(山口県周南市)を題材として、地域活力の発掘や育成の方法、さらには地域活力の活用方法等について研究することで、市民(地域)が道の駅について学び、道の駅整備に向けた機運の醸成を図る。

(2) 開催要領

下記の通り、3部会合同ワーキングを開催した。

- 日時：平成27年11月26日(木) 14:00~15:30
- 会場：桶川市 川田谷生涯学習センター 視聴覚ホール
- 内容：江本伸二氏(道の駅ソレーネ周南駅長)「地域力を活かした道の駅の運営による地域創生」

【講演会案内パンフレット】

(仮称)「道の駅おけがわ」3部会合同ワーキング
道の駅の開業に向けた講演会

(テーマ)

地域力を活かした道の駅の 運営による地域創生

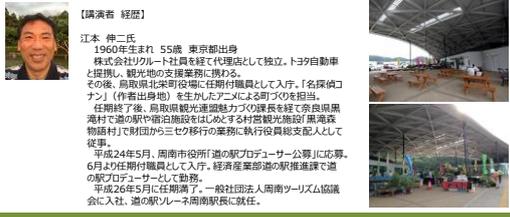
- (仮称)「道の駅おけがわ」設置検討ワーキングは、昨年度に引き続き3つの部会(農業振興部会、商工振興部会、地域連携部会)に分かれ、道の駅開業を見据え、地域の取組について検討を進めています。
- 道の駅の成功のためには、関係者や市民の方に主体性を持って頂き(地域力を結集し)、道の駅を活用した地域活性化の取組を進めていけるか大きな力を担っていると思います。
- 昨年度国土交通省は、道の駅を地方創生拠点(地域活性化の拠点)として位置付け、全国モデル「道の駅」、重点「道の駅」、重点「道の駅」候補を選定しています(桶川市は重点道の駅候補に選定されました)。
- 今般、地域が一丸となって道の駅運営を行い、成功を納めている「道の駅ソレーネ周南(山口県周南市)」の駅長である江本伸二氏を講師にお呼びし、地域力の育て方、まとめ方、活用の仕方について、講演をお願いすることになりました。

日 時：平成27年11月26日(木) 14:00~15:30

会 場：桶川市 川田谷生涯学習センター 視聴覚ホール

【講演者 経歴】

江本 伸二氏
1960年生まれ 55歳 東京都出身
株式会社リクルート社員を経て代理店として独立。トヨタ自動車と提携し、観光地の支援業務に携わる。
その後、鳥取県北栄町に任期付職員として入り、「名探偵コナン」(作者出身地)を生かしたアニメによる町の振興を担当。
任期終了後、鳥取県観光推進課長を経て奈良県黒滝村で道の駅や宿泊施設をはじめとする村営観光施設「黒滝森物産村」で町長からニセガキの業務に執行役員総支配人として従事。
平成24年5月、南南中役所「道の駅プロデューサー」公募に応募。
6月より任期付職員として入り、経済産業部道の駅推進課で道の駅プロデューサーとして勤務。
平成26年5月に任期満了。一般社団法人南南ツーリズム協議会に入社、道の駅ソレーネ周南駅長に就任。





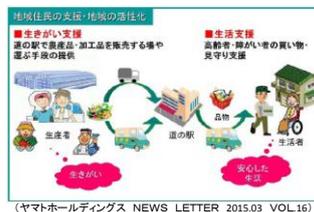
【施設概要】

オープン：平成26年5月17日供用開始
所在地：山口県周南市大字戸田2713番地
国道2号線沿道
主な施設：駐車台数(普通車125台、大型駐車42台、バリアフリー駐車3台)、情報コーナー、特産販売所、レストラン、公園、障害者トイレ、EV充電器

③ここに注目！

- ・道の駅まで40km、生産者をつなぐ「オール周南」を目指した取組
- ・中山間地、高齢化、地域の課題解決に取組む
「福祉サービスを行う道の駅」

テレビ東京の「ガイアの夜明け」等をご覧になって既にご存知の方もいるかもしれませんが、ソレーネ周南は、開業以来テレビや新聞などの各種マスコミからユニークな取組が注目されています。
ソレーネ周南は、「オール周南」・「福祉サービスを行う道の駅」という目標を掲げ、開業以来、地域の活性化や課題解決に取り組んでいます。こうした取組の一環で、ヤマト運輸と全国で初めて「地域活性化包括連携協定」を締結したほか、「来れる市民だけの道の駅でなくすべての市民に道の駅を体感してもらいたい」というデザインコンセプトのもと2015グッドデザイン・ベスト100にも選ばれています。
周南市の取組が、桶川市にそのままあてはまる訳ではありませんが、地域の5年後10年後を見ず、そこにある課題を道の駅を通じて解決していきたいという思いを桶川市の道の駅づくりに生かしていきたいと考えています。



(3) 講演要旨及び質疑応答

①講演要旨

- ・運営会社は、公共的な団体が出資はしているものの市の出資は受けずに、一般社団法人として立ち上げた。株式会社であれば、出資者に利益を配当しなければいけないが、一般社団法人はその必要がなく、利益は内部留保としてためておき、将来的に地域に

還元する取組のために使うこととしている。

- ・ 道の駅はただの物売りの場ではなく、地域の活性化に資するための施設である。だからこそ、行政がお金を出して作る意味がある。
- ・ 公共施設でもあるが、民間企業として利益も上げなければいけない。公と私の使い分けが、非常に重要となってくる（例：市外の業者、市内の販路のある人、市内の販路のない人で販売手数料に差を付けている）。
- ・ イオンの店舗は全国に 500 店舗程度あるが、その店舗の作りは同じような立地条件であればいたい同じである。一方、全国の道の駅はその倍の 1,079 駅もあるが、どこ一つとっても同じものはない。ぜひ、桶川ならでは道の駅を作り上げてほしい。
- ・ 外の人（観光客）が道の駅があつてよかったと言ってくれるゲートウェイ型、地元の人が道の駅ができてよかったと言ってくれる地域センター型、そしてその二つを合わせもったような道の駅がある。周南は、観光地もなかったので、地域センター型の道の駅を選択した。
- ・ 売場がある（＝売上がたつ）ことが、出荷者の励みや生きがいにつながる。市民の励みや生きがいを作り出すことが、道の駅の公共的な役割の一つである。だからこそ、出荷したくても出荷できない人が出荷できるような仕組み作りが必要だった。
- ・ 道の駅に農産物を出荷するために片道 1 時間以上かかるため、出荷したくても出荷できない出荷者が多くいる状況を打開するために、ヤマト運輸と連携し、市内 5 か所の物流センターを集出荷拠点とし、そこに集めた農産物等をヤマト運輸が道の駅に運び込むシステムを作りあげた。また、遠隔地の出荷者は、買い物弱者でもあるケースが多く、コンビニを併設する道の駅で生活に必要な商品を集め、帰り便を活用して出荷者に届ける仕組みも構築した。

②質疑応答

【質問】

敷地の面積はどのくらいか。また、その敷地内に道の駅の全施設や駐車場があるのか。

【回答】

駐車場を含めて 2.2ha。駐車場を含めて、全てがこの敷地内に含まれている。
駐車台数 170 台は山口県内でも上位だが、臨時駐車場を確保していない。そのため、繁忙期には、駐車場は不足気味である。他の道の駅では、繁忙期のために臨時駐車場を確保しているところが多い。

【質問】

販路のない人のためということだが、家庭菜園をやっている人の出荷も可能なのか。

【回答】

栽培記録を付けていることや荷姿の講習会を受講することなどの一定のルールを設けているが、それをクリアできれば出荷できる。

【質問】

スーパーでも委託販売方式で地元の野菜を売っている。スーパーとは、競合しないか。

【回答】

スーパーの他に、市内にJAの直売所が8か所ある。近所に直売所のある生産者は、取扱の条件が同じなのでわざわざ遠い道の駅に出荷する必要がないという考え方だった。しかし、道の駅としては、周南全域のものを集めるという方針があるので、しっかりと売り切るから、少しでも良いから道の駅に出してくれないかとお願いをしてみわった。道の駅も委託販売だからといって、店に商品を並べるだけで後は何もしないということであれば生産者は逃げていくので、道の駅としてもPOPを作ったり、店員が商品説明をしたり、売るための努力をしている。野菜売り場も含めて、24時間営業をしている。JAの直売所は、基本的に午前中に出して、夕方には引き上げなければいけないため午後の出荷は嫌がられる。しかし、道の駅では、生産者の都合の良い時に出荷できるので、夏であれば涼しい朝方と夕方に出しに来たりする。また、通院や来客で出荷をあきらめていたような出荷者も24時間出荷できるので、自分の都合に合わせて出荷できるようになった。

【質問】

売れ残ったものの引き取りは、どうなっているか。

【回答】

できるだけ売り切るように努力したり、加工品の原料にまわしたりしているが、売れ残って引き取りが発生することもある。引き取りが発生することは、生産者も始めから理解している。逆に、生産者が売れ残った量を見て、出荷量を調整したりする。また、出荷者に販売状況をメールで伝えている。ほとんどの直売所では4時間ごとに出している出荷者に販売状況を伝えるメールを、周南では2時間ごとに出している。頻繁に情報を出すことで、出荷者も出荷量を計算でき、その結果、残るものも少なくなっている。

【質問】

値段の付け方は、どうなっているか。また、出荷調整等は行っているのか。

【回答】

値段は、生産者が自分で自由に付けている。JAの直売所に出している人は相場をわかっているし、初めて出荷する人もスーパーに見に行ったりして考えている。また、バックヤードに新聞の相場表も書き出しているし、生産者から相談があればこちらからもアドバイスはする。早い者勝ちではないので、多く出荷した人のものは半分くらいバックヤードに下げて、棚が空いてきたら、また並べるようにしている。当初は早い者勝ちで、出荷者自身のカゴに入れて棚に並べてもらっていた。だが、そうすると出荷者のカゴだから勝手に片づけられないので、今は道の駅のカゴに移し替えてもらって棚に並べてもらっている。

【質問】

道の駅によっては 15 時頃になると、商品がほとんどないようなところもある。道の駅に商品が、一番たくさん並んでいる時間帯はいつか。

【回答】

たいていの道の駅は 11 時から 14 時までがピークだが、周南は 24 時間営業で、2 時間おきに情報を出しているの、比較的いつでも商品はある。他の道の駅は、だいたい 17 時くらいで閉まるので、例えば 15 時に出しても 17 時には撤去しなければいけないので午後に出荷する人は少ないが、周南は 24 時間営業なので夕方でも商品はある。

【質問】

加工品の開発で、補助金を全く使わないようにという話だったが。

【回答】

民間企業が商品開発を行う際には、自腹でやっている。そういう点から、補助金に頼らないという意識改革をしようということ。

全くやったことがない所がゼロから始める際には補助金も必要かもしれないが、既存の商品のブラッシュアップであれば、補助金に頼らないでやるように呼びかけている。

6 今後の方針と展開

次年度以降、これまでの活動の成果と課題を踏まえ、下記の 2 つの方針でワーキングを開催し、3 部会共同で「おけがわ・うわさのマルシェ」の開催をめざす。

【方針 1】

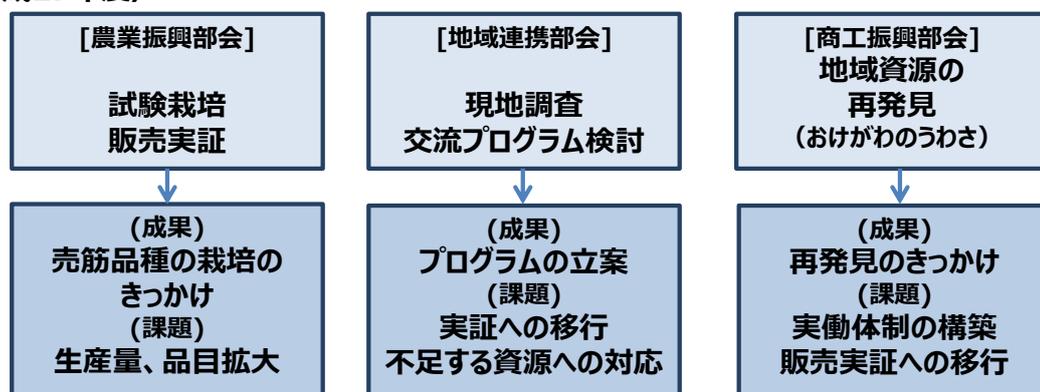
これまでは市内の主要団体等からの推薦により部会員を決定してきたが、次年度以降は、より具体的な活動を検討していくため、実際の活動の担い手となる人材を中心としたメンバー構成とする。

【方針 2】

これまでは 3 部会に分かれて、それぞれ異なった活動をしてきたが、次年度以降は、道の駅を桶川市の新たな魅力発信の拠点とするという共通の理念の基、部会横断の取組を検討・実施し、市全体で道の駅の開業に向けた機運を高める。

【来年度のイメージ】

〈平成27年度〉



〈平成28年度〉

